

にぎわい

日本海にぎわい・交流海道ネットワーク通信

会員だより

～伊万里港臨港道路（伊万里湾大橋）が開通～

伊万里湾により東西に分断されていた伊万里港の機能を強化するため建設が進められてきた「伊万里港臨港道路」が、来月3月9日に開通いたします。

伊万里港は、佐賀県の中心的工業都市である伊万里市及びその周辺地域を支える重要港湾です。また、平成9年に開始されたコンテナ貨物の取扱量は順調に伸びており、県内における海上物流の拠点となっています。

しかしながら、伊万里湾により、コンテナターミナルや造船等を中心とする東の七ツ島地区と、木材や砂等を中心とする久原地区に、その港湾機能が東西に分断されていました。

そのため、伊万里港の港湾機能を一体化し、物流・生産・レクリエーション基地としての機能を更に向上させるため、伊万里港臨港道路の整備が計画され、平成3年2月の着工以来工事期間12年を経て、平成15年3月に暫定2車線で供用が開始されました。



【臨港道路概要】

延 長	：2,920m	(うち橋梁部651m)
幅 員	：全幅20.75m	(橋梁部21.3m)
車 線 数	：車道4車線	(うち2車線で暫定供用)
設 計 速 度	：時速50km	
事 業 主 体	：国土交通省	管 理 主 体：佐賀県
事 業 費	：約230億円	

開通による効果として、現在の交通経路が距離にして約10km、時間にして約30分短縮され、伊万里湾により東西に分断されている伊万里港の港湾機能が格段に向上することや、伊万里港の物流拠点としての魅力が向上し、周辺への企業立地が促進されること、市街地の交通混雑が緩和され、排気ガス等環境への負荷が軽減されることなどが期待されます。また、橋梁部は地域のシンボルと

して景観上の効果も期待されます。

レポ ー ト

～九州地域の「みなと」づくりを考える

女性懇談会 in 対馬開催～

昨年の12月17日、18日の2日間にわたり、九州地方整備局は、長崎県厳原町で、『第二回九州地域の「みなと」づくりを考える女性懇談会 in 対馬』を開催しました。

本懇談会は、平成13年6月に当整備局が策定した「九州地域における新世紀の港湾・空港ビジョン」の柱である「九州のみなとが目指す方向および具体的施策への展開」において、特に「女性の視点」を取り入れることを目的としたもので、九州・関門地域の幅広い分野でオピニオンリーダーとして活躍中の女性15名が参加しました。

懇談会初日は、まず厳原港のフェリーターミナルや廃家電のストックヤード等、九州と朝鮮半島の間位置する対馬厳原における「みなと」の現地等を視察しました。その後全体会に移り、小原九州地方整備局港湾空港部長の主催者代表挨拶、開催地である洲上清厳原町長の歓迎挨拶の後、福岡県（博多港）の代表者である大谷鮎子氏が座長に選出され意見交換を行いました。



廃家電ストックヤード視察



開催地歓迎挨拶

意見交換の場では、加藤

長崎県土木部港湾課長より「長崎県の港湾」の紹介、朝鮮通信使行列振興会会長の山本博己氏より「厳原町における国際化」の紹介を行いました。また、当整備局より問題提起の意味を含めて「みなとと環境、国際化との関わり」について報告するとともに、今後の整備の展望に

ついて説明しました。その後、来賓の東恵子東海大学短期大学部生活科学科助教授より女性ネットワークの活動

事例「清水港みなと色彩計画」の報告を頂きました。

これらの報告を受け、「環境」と「国際化」の分科会を設け、各々で意見交換を行いました。環境分科会では「港湾が静脈物流の拠点として果たすべき役割が大きいことは理解できるが、環境に影響を与えないしっかりとした基準作りをしてほしい」、国際化分科会では「厳原港は市街地と近い。こうした利点を港づくりに生かせば、対馬は国際交流アイランドとして発展するのではないか」など多数の意見が出ました。

最終日は、分科会において出された意見の報告と共に、



懇談会の様子

今後の九州女性ネットワークのあり方についての意見交換を行いました。

最後に、小原港湾空港部長が「皆さんから頂いた貴重なご意見を参考として、今後も国と地域のパートナーシップを取りつつ“魅力あるみなとづくり”を目指した港湾整備を進めて行きたい。」と、全体を総括して締めくくりました。

編集・問い合わせ先 日本海にぎわい・交流海道ネットワーク事務局
九州地方整備局 港湾空港部 港湾計画課 TEL 0832-24-4126
担当:那須、永田 FAX 0832-24-4137